

魅力発信！えひめ農業NOW

令和4年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、8月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564



<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>


目次


目次	1
8月のトピックス5選	3
うま茶の産地統一ブランド「結の霧ひめ」等の販路開拓に向けた商談会支援	3
業務用マイナー野菜類の生産振興策を検討	3
「甘平」裂果対策実証ほの巡回	4
Zoomを用いた新たな就農相談システムを提案	4
電動一輪車で運搬作業の軽労働化	5
えひめ農業 NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
県立丹原高校の GAP 更新審査を支援	6
地域一体となって就農初期の農業者を指導	6
東予地域の鳥獣害対策強化に向け、えひめ地域鳥獣管理専門員が連携	7
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
うま茶の定着に向けた魅力向上策の提案	7
■東予地方局 産地戦略推進室	8
花木の産地化に向けて各 JA が連携強化	8
■今治支局 地域農業育成室	8
簡便な電気柵利用で加害獣の侵入防止対策を実施	8
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	9
新規就農者の経営支援面談を開催	9
■今治支局 産地戦略推進室	9
生産者とパティシエ等の需要者とのマッチング	9
醸造用ぶどう栽培講習会の開催及び果樹研究センターと栽培技術を協議	10
■中予地方局 地域農業育成室	10
天敵利用で施設なすの防除回数が6割減	10
「イノシシ侵入防止対策リーダー」の指導と対策モデル農地巡回を実施	11
新規就農者の巡回指導による育成と定着支援	11
JA を介した農福連携を支援	12
こだわりのいちじくの魅力を愛媛 CATV で PR	12
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	13
新規就農者フォローアップによる定着支援	13
広田自然薯組合夏季研修会を開催	13
6次化商品「されだにゆずこしょう」のピンチを支援	14
伊予地区、水稻紋枯病が多発	14
さといも「愛媛農試V2号」の生育順調	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
久万高原町で水稻の病害虫一斉調査を実施	15
研修生および新規就農者を対象にトマトの生育調査を実施	16
愛媛 CATV を通じたいちごの PR	16
雑穀が収穫期を迎える	17

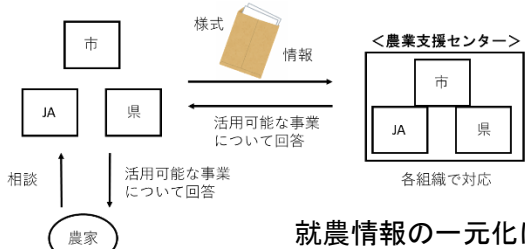
■南予地方局 地域農業育成室	17
さといもの産地強化に向け関係機関と意見交換	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
就農を目指す農業研修生を対象に研修会を開催	18
キウイの花粉ビジネスにおける新梢管理の省力化試験を実施	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	19
多収穫米の適期刈り取り等を指導	19
小麦粉の代替として米粉を使った商品開発を目指す	19
■南予地方局 産地戦略推進室	20
「媛かぐや」等新品目導入を契機とした産直市の活性化	20
儲かる農業を目指す若手生産者へ経営指導	20
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
県内飲食店事業者に対する冷蔵貯蔵「清見」の需要調査(地産地消マッチング商談会)を実施	21
法人の経営力強化に向けワークショップによる研修会を開催	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
高知県で新しょうが多収栽培技術を視察	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	22
いちごの天敵アザミウマによる防除効果を巡回指導で生産者に周知	22
地元高校生によるにんにく加工品づくりを支援	23
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
加工用青ねぎにおける排水改善・減肥に向けた緑肥作物の効果検証を開始	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	24
基盤整備ほ場の効果的な土づくり実証	24
さといもの早期出荷に向けた栽培技術指導及び加工業務品種の生産について協議	24



8月のトピックス5選

標 題	うま茶の産地統一ブランド「結の霧ひめ」等の販路開拓に向けた商談会支援		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年8月23日	場所	愛媛県民文化会館	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○地産地消マッチング商談会での販路開拓を支援した。</p> <p>○本年6月から新商品として販売開始した「結の霧ひめ（ほうじ茶）」をはじめ、四国中央市産お茶（うま茶）の販路開拓として、協議会会長（有）協製茶場専務）が実施した飲食店向けの商談会に同行し、産地のPRや新商品の提案等を行った。</p>			
結果と今後	<p>○道後商店街のカフェ及び道後ホテル内レストラン計4店舗と具体的な商談を実施し、サンプル提供を通じた商談を継続することとなった。</p> <p>○飲食店側は、子どもや高齢者向けの商品展開（飲料及び加工品）としてほうじ茶に注目していることと、地産地消の観点から県内産の引き合いが強いことを把握した。</p> <p>○当班からは、うま茶は天敵を利用した農薬を使わない栽培が特長であることと、ほうじ茶は飲用・加工用の用途に応じて商品を使い分けることが可能であることを説明・提案した。今後、加工用（スイーツ等）の素材として粉末茶の追加提案等を支援し、産地全体のPRと販路開拓に努めていく。</p>			
				<p>左：提案した商品の数々</p> <p>右：試飲を交えた商談</p>



標 題	業務用マイナー野菜類の生産振興策を検討		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月18日	場所	今治市	
指導対象	さいさいきて屋	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○「さいさいきて屋」と県内外の飲食事業者等から要望されている業務用マイナー野菜類の生産振興策について協議した。</p> <p>○当室は、「さいさいきて屋」から提案された振興品目のリストをもとに、品目や作型ごとの栽培の難易度等を分析し報告するとともに、栽培ノウハウや需要数量の把握のための栽培実証と試験販売の実施を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○今年の9月から、「さいさいきて屋」が所有する加温ハウス内で品目ごとの栽培実証を行うとともに、生産物は既に取引のある飲食業者や「さいさいきて屋」が松山三越に8月25日から開設する直売コーナー等で試験的に販売すること等が決定した。</p> <p>○当室は、栽培実証や試験販売の結果をもとに、推進品目と作型や必要とされる供給量等を決定し、令和5年度から本格的な栽培や生産者の育成を図る予定。</p>			
 <p>業務用野菜振興に係る協議</p>		 <p>マイナー野菜振興に係る計画書</p>		 <p>実証予定のビニールハウス</p>



標 題	「甘平」裂果対策実証ほの巡回		機関名	中予地方局産地戦略推進室 〃 地域農業育成室
年月日	令和4年8月19日	場所	松山市、伊予市	
指導対象	「甘平」生産農家（3戸）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○令和4年度から、「甘平」の連年安定生産技術の確立を目的に地方局とJAが共同で裂果対策の実証試験を実施している。</p> <p>○当日は、JAが設置した3ヶ所の実証ほで、それぞれ3本の試験樹の全果実数を調査後、「甘平」の仕上げ摘果の目安である18果/m³に果実数を調整。</p> <p>○また、地方局が設置している実証ほの着果状況や果実分析結果、遮光処理の概況等をまとめた資料を配布し、実証状況等の情報を共有。</p>			
結果と今後	<p>○8月下旬から実証ほの裂果数調査を開始したが、各実証による有意な差はまだ見られていない。</p> <p>○引き続き、関係機関と連携した継続的な調査を行い、裂果率及び果実品質に及ぼす影響を調査する。</p> <p>○なお、調査結果については、中予版「栽培改善事例集」として取りまとめる。</p>			
				
裂果数調査			裂果果実へのラベリング	

標 題	Zoomを用いた新たな就農相談システムを提案		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月9日、16日	場所	南予地方局	
指導対象		連携機関	宇和島市、市農業委員会、JA えひめ南、地方局農村整備課	
普及指導内容	<p>○新規就農に必要な農地や住居、技術、補助事業など、市や農業委員会、JA、当室がそれぞれ所管している情報を、相談者がどの窓口に行っても一元的に提供できるよう、Zoomを用いた新たな就農相談システムを各機関に提案した。</p> <p>○これは、当室の呼びかけで6月に開催した、南予果樹同志会の「補助事業活用研修会」において、出席者から「各機関同士で農家の相談内容を共有してほしい」との声があったことを受け考案したもの。</p> <p>○16日には、宇和島市農業支援センター（事務局：宇和島市農林課）がホストとなり、地方局、JA等の各機関がZoomに接続して通信テストを実施した。今後は、各機関が受けた相談内容を所定の様式で情報共有し、対面での協議が難しい場合はZoomを活用することを申し合わせた。</p>			
結果と今後	○将来的には、補助事業に関する相談だけでなく、県外からの就農相談も受けられるようにし、担い手の確保に活用できるよう、引き続き関係機関と協議を進める。			
 <p style="text-align: center;">就農情報の一元化に向けたイメージ</p>				


標 題	電動一輪車で運搬作業の軽労働化		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年8月9日	場所	八幡浜市舌田体育館、現地ほ場	
指導対象	八西地区家族経営協定ネットワーク 推進協議会員（30人）	連携 機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ、 (株)Cubo Rex	
普及指導 内容	<p>○かんきつ農家の運搬作業の軽労働化に向けて、一輪車電動化キットの研修会を開催した。</p> <p>○研修会では、開発したメーカーの担当者が同機種の特徴として、総重量が12kgと軽量、コンテナ3～5個（100kg）まで積載可能、コンテナ縦置きで狭い樹間でも運搬しやすいことなどを説明するとともに、既に導入している農家が自身の使用例や感想を紹介した。</p> <p>○また、参加者は傾斜のある園内道で、実際に一輪車を押し、電動によるアシスト力を体感した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「軽い」「すごく楽」「さっそく注文したい」といった声上がるなど好評であった。</p> <p>○当室ではメーカーの協力を得て9月末まで無償で貸出し、より多くの農家に使用してもらうことで普及を図ることとしており、管理作業の軽労働化の一助となればと期待している。</p>			
				<p>左：導入農家が使用例を説明 右：電動のアシスト力を体感</p>



えひめ農業 NOW



標 題	県立丹原高校の GAP 更新審査を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月9日	場所	県立丹原高校	
指導対象	県立丹原高校園芸科	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	<p>○県立丹原高校では、平成30年からグローバルGAPに取り組み、台湾へブドウを輸出している。</p> <p>○当室では、7月15日に更新審査前の内部監査を行い、是正箇所を指摘するなど、GAP更新の支援を行っており、今回、SGS ジャパンによる更新審査があった。</p>			
結果と今後	<p>○更新審査の結果、7か所を修正することとなった。</p> <p>○今後もGAP更新の支援を行うとともに、管内の農業者、団体へGAP支援を行う。</p> <p>○今年度中に県立西条農業高校が取得予定で、取得へ向けた支援を行う。</p>			
				<p>左：GAP書類審査 右：現地での確認審査</p>
<p>【GAP (Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)】 農産物の安全を確保し、より良い農業経営を実現するため、食品安全だけでなく、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組。</p>				



標 題	地域一体となって就農初期の農業者を指導		機関名	東予地方局地域農業育成室 〃 産地戦略推進室
年月日	令和4年8月5日、30日	場所	東予地方局西条第二庁舎	
指導対象	就農初期の農業者（延べ27人）	連携機関	JA周桑、JAえひめ未来 西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○5日、西条地区認定農業者等連絡協議会と協力し、農家アドバイザーと連携して就農初期の農業者にさといも栽培のポイント指導と意見交換をした。</p> <p>○アドバイザーは、ほ場準備から収穫までの作業管理を説明し、草を生やさない、水を切らない、7月下旬の追肥が収量増となる秘訣等の指導をした。</p> <p>○30日、産地戦略推進室が「農作物の病害対策」として、病原菌の特徴や防除対策について指導し、参加者から多くの質問があった。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、さといもの機械投資やマルチ張りについての質問が出るなど、面積拡大に向けた意欲の向上が見られた。</p> <p>○指導対象者は病害対策の基本知識を習得し、今後の収量増、所得向上が期待される。</p> <p>○認定農業者の役割開発ができ、その技術や経営者としての考え方を就農初期の農業者へ伝授できた。</p>			
				<p>左：農家アドバイザーによる、さといも栽培指導及び意見交換 右：職員による病害対策指導</p>


標 題	東予地域の鳥獣害対策強化に向け、えひめ地域鳥獣管理専門員が連携		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月9日	場所	愛媛県西条第二庁舎	
指導対象	東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員 (12人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○各専門員が担当地域で実践する被害対策についての情報・技術交換を行うとともに、今年度の活動について検討した。</p> <p>○近年、東予地域で増加するニホンザル被害について、効果的な対策技術に関する各地域の取組内容等の情報交換を行い、各市単独の活動に加え、東予地域が一体となり被害対策を進めることを申し合わせた。</p>			
結果と今後	<p>○今年度の活動として、人材育成、技術指導資料作成、専門員としての資質向上に向けた専門家による研修会を実施することとした。</p> <p>○9月には、人材育成に向け、東予地域えひめ鳥獣管理専門員連絡会主催の JA 等関係機関団体の職員等を対象とする指導者向け研修会の開催を予定。</p>			
<p>【東予地域えひめ鳥獣管理専門員連絡会】 えひめ地域鳥獣管理専門員が、東予地域における鳥獣被害の課題解決に向け、専門的な技術、知識等の収集や資質向上等を目的に開催する会</p>				<p>連携による活動を検討</p> <p>持ち寄った情報を共有</p>



標 題	うま茶の定着に向けた魅力向上策の提案		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和4年8月27日	場所	四国中央市土居町	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○うま茶の定着に向け、茶園や茶文化等のPRを支援した。</p> <p>○市内セレクトショップにて、協議会副会長（大西茶園代表）が消費者6人に対し、ブランド茶である「結の霧ひめ（ほうじ茶）」の紹介に加えて、お茶の魅力や楽しみ方を紹介するお茶会形式のプレゼンテーションを実施し、産地の魅力向上とうま茶のファンづくり活動を行った。</p>			
結果と今後	<p>○お茶の種類や品質の違い等、試飲と手触りで体感した参加者は、うま茶に強い関心を持った様子で、熱心に質問や記録をしており、9月の茶摘み体験（紅茶用）の希望者も現れた。</p> <p>○当班は、うま茶の振興と販路拡大には、茶のある生活を広く定着させることが重要と認識しており、9月にはブランド茶の新商品（煎茶）が投入予定であるため、今後とも生産者等によるPR活動の実践を通じて、多様なファンづくりを支援する。</p>			
 <p>うま茶の定着に向け、ファンづくりに邁進</p>				




標 題	花木の産地化に向けて各 JA が連携強化		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月1日	場所	JA うま(四国中央市)	
指導対象	東予地方局管内 JA 担当者 (5人)	連携機関	今治支局産地戦略推進室	
普及指導内容	<p>○花木栽培技術の高度化を図るため、JA おちいまばり、JA 周桑、JA うまの営農販売担当者を参集し、東予地域花木生産対策会議を開催した。</p> <p>○会議では、高温・乾燥等の影響や栽培上の課題とその対策について品目（ピットスポラム、ビブルナムティナス、メラレウカ）ごとに検討。また、今年度の栽培技術研修会や販促活動について、各 JA が連携して取り組むことを申し合わせた。</p> <p>○会議終了後には、JA うまの主力品目であるピットスポラムほ場で、樹齢別管理状況や栽培の少ない斑入り品種等を視察した。</p>			
結果と今後	<p>○品目ごとの課題が整理できたことから、ほ場条件の異なる地域で実証試験を行い、結果を共有することで、早期に課題解決を図ることとした。</p> <p>○栽培技術向上のため、9月に育苗研修会及び高度化研修会を開催する。</p> <p>○ここ数年、コロナ禍で実施できなかった販促活動については、東京大田花き市場において3JA が合同して実施することとし、花木の鮮度や品質の良さ等のPRを行い、東予産花木の知名度向上を図る。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：ピットスポラムの成木園を見学 右：斑入りピットスポラム（バリエガータ）</p> </div> </div>				



標 題	簡便な電気柵利用で加害獣の侵入防止対策を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和4年8月12日	場所	今治市玉川町別所	
指導対象	サツマイモ生産農家 (1人)	連携機関	今治市役所玉川支所	
普及指導内容	<p>○玉川町の農家からの要請を受け、収穫直前のスイカを食い荒らす加害獣をセンサーカメラで調査したところ、タヌキであることを特定。</p> <p>○今後、サツマイモが収穫期を迎えることから、サツマイモほ場において、特定したタヌキ等の中型獣の侵入防止に適し、架線作業が容易な簡易電気柵を貸出し、侵入防止効果を確認することとした。</p> <p>○併せて、侵入防止対策（電気柵やワイヤーメッシュ柵の設置）における今治市の助成事業について情報提供した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者自ら電気柵の設置作業を体験してもらい、約60mの電気柵設置が10分程度で完了した。</p> <p>○生産者は「価格は通常の電気柵に比べ割高であるが、設置後の管理作業が容易で、市の助成を考えた上で今後導入を検討したい」と購入に前向きだった。</p> <p>○今後、サツマイモの収穫終了までセンサーカメラを設置し、簡易電気柵の侵入防止効果を確認する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 35%;"> <p>【簡易電気柵】 電気柵とポールが一体化し、電柵（4段張り）はリール式で、架線・撤去作業が容易。高齢者や女性でも作業は片手で可能。ソーラーパネル内蔵のバッテリーを使用するため、設置場所を選ばない。</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;">   </div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>スイカ畑に侵入したタヌキ スマートフェンス設置状況</p> </div> </div>				



標 題	新規就農者の経営支援面談を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和4年8月9日～10日	場所	上島町役場岩城総合支所・現地ほ場	
指導対象	農業次世代人材投資事業開始型給付金受給者（4人）	連携機関	上島町地域担い手育成協議会（上島町、NPO、JA、愛媛県）	
普及指導内容	<p>○当班が構成員になっている上島町地域担い手育成協議会は、「農業次世代人材投資事業」開始型の給付金受給者を対象に面談会を開催した。</p> <p>○面談では決算書や帳簿、作業日誌による経営状況の把握や悩みの聞き取りを行ったほか、園地を訪問して栽培管理状況を確認し、助言指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○粗収益は順調に向上しているものの、未成園が多いことに加え、就農時における機械・施設の整備経費が負担となっていることなどが悩みとして挙げられた。</p> <p>○当班では、借り入れた老木園を収益性の高い果樹品種に更新することや未収穫期間の収入を補う補完作物（野菜）の導入などを提案するとともに、的確な技術指導を行い新規就農者の経営が早期に軌道に乗るよう指導していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: right; margin-right: 50px;">左：面談会 右：新規就農者の 青パイヤの管理状況</p>				



標 題	生産者とパティシエ等の需要者とのマッチング		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月3日	場所	東温市	
指導対象	西洋菓子TSUKASA（今治市） ほかスイーツ店のパティシエ3人 有機栽培グループ「あしたも」	連携機関	(株) コスモ精機（JAC）	
普及指導内容	<p>○東温市産マンゴーの取引意向を持つ県内ケーキ店3店と生産者を訪問し、加温ハウスでの栽培状況を確認した後、その取引価格や方法について検討した。</p> <p>○この取組は、地産地消の意識が高い「西洋菓子TSUKASA」のパティシエ永井氏への営業活動の中で提案していたものであり、松山市と宇和島市のパティシエも合流する形で現地見学が実現した。</p> <p>○大三島等で野菜類の有機栽培に取り組む生産者グループ「あしたも」とも今後の生産、販売に係る協議を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加したパティシエは県産農産物の取引拡大に前向きであり、当室は引き続き県内生産者等とのマッチングを進めていく。</p> <p>○「あしたも」とも有利販売を目指し飲食事業者とのマッチング等を進める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div> <p style="text-align: center;">マンゴー栽培の視察 パティシエとの取引協議 有機栽培グループとの協議</p>				


標 題	醸造用ぶどう栽培講習会の開催及び果樹研究センターと栽培技術を協議		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月1日、15日	場所	今治市上浦町	
指導対象	生産農家（7人） 新規栽培希望者（2人）	連携機関	大三島みんなのワイナリー	
普及指導内容	<p>○1日に第2回醸造用ぶどう栽培講習会を開催し、各園地の現在の糖度や酸度の状況等を報告するとともに、新規栽培者向けに大三島みんなのワイナリーの川田氏を講師に防鳥ネットの設置実習を行った。</p> <p>○15日には果樹研究センターの研究者と園地を巡回。現地の状況を確認するとともに、品種ごとの収穫適期や栽培上の問題点等を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○7月末現時点での果実品質は、開花期以降の日照量が確保されたことから、多くの園地で良好な糖度の上昇が確認されている。</p> <p>○一方、乾燥等による早期落葉により葉面積が確保できていないほ場では果実着色の遅れ等が確認されたことから、副梢の管理方法の改善策等について研究者及びワイナリー関係者等と協議を行った。当室は引き続き調査を行い、得られた情報等は今年度作成する栽培マニュアルや防除暦に反映させる。</p>			
  				
<p>講習会における果実調査の報告 防鳥ネットの設置を実習 果樹研究センター研究者との協議</p>				



標 題	天敵利用で施設なすの防除回数が6割減		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年3月2日～8月4日	場所	松山市荏原	
指導対象	なす生産農家（44人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○なす天敵利用技術確立に向け現地実証を行った。</p> <p>○アザミウマ類防除は、薬剤抵抗性の発達や有効な薬剤が少ないことなど、対策に苦慮していることから、天敵による防除を推進している。</p> <p>○天敵放飼前に薬剤による害虫防除を徹底してから、タバコカスミカメ、スワルスキークブリダニを放飼し、アザミウマ類を防除する。</p>			
結果と今後	<p>○栽培期間中、防除回数を約6割削減することができ、品質は慣行栽培と同等以上となった。</p> <p>○実証結果を各地区の栽培講習会で周知し、天敵利用技術を広める。</p>			
  				
<p>タバコカスミカメ タバコカスミカメの放飼 天敵の定着状況を調査</p>				

標 題	「イノシシ侵入防止対策リーダー」の指導と対策モデル農地巡回を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月23日	場所	松山市興居島泊	
指導対象	イノシシ侵入防止対策リーダー等 (3人)	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○モデル集落のかんきつ園を巡回し、イノシシ侵入防止対策リーダー(以下、リーダー)の指導と侵入防止対策モデル園の選定を行った。</p> <p>○リーダーに対しては、ワイヤーメッシュ柵の追加対策の手順について、資料を用いて指導したほか、現地へ移動し侵入状況を確認するとともに、実際に追加対策の指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今回、約1.4kmの柵を調査して、柵の破損や隙間が確認できたため、今後、モデル園を設定して改善策を指導し、被害ゼロを目指す。</p> <p>○9月に捕獲対策リーダー指導を行い、軽量箱わなを利用した技術指導を行う。</p>			
				<p>左：現地巡回指導 右：溶接部分が破損した柵</p>




標 題	新規就農者の巡回指導による育成と定着支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月1日～19日	場所	松山市、東温市	
指導対象	新規就農者等59人	連携 機関	松山市、東温市、JAえひめ中央、JA松山市、日本政策金融公庫	
普及指導 内容	<p>○「農業次世代人材投資事業」の経営開始型を利用した新規就農者等59人(松山市44人、東温市15人)に対し、関係機関と共に個別巡回指導した。</p> <p>○青年等就農計画等に対する農地の利用や農産物の生産販売の進捗状況を確認するとともに、今後優先すべき作業や改善点等について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○各就農者ともに、農地の取得や作付状況は概ね計画通りに進捗しているが、一部のほ場では作業の遅れ、病害虫や鳥獣による被害が見られたため、改善策について指導を行った。</p> <p>○今後も新規就農者に対して個別巡回指導を行い、育成と定着を図る。</p>			
				<p>左：かんきつの管理及び生育状況を確認 右：施設の整備状況、作付計画を確認</p>


標 題	JA を介した農福連携を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月17日	場所	松山市、伊予市	
指導対象	福祉施設（4戸）	連携機関	JA えひめ中央、JA 松山市	
普及指導内容	<p>○農福連携の定着を支援するため、農業による施設外就労に興味を示しているA型事業所1戸、B型事業所3戸を訪問し担当者と同面談した。</p> <p>○当室の取組みについて資料を用いて説明したほか、農作業による施設外就労の実施についての意向を聴取した。</p>			
結果と今後	<p>○7月に同様の内容で面談した福祉事業所を含めると、農福連携による施設外就労を希望する福祉事業所は、A型4事業所、B型9事業所となった。</p> <p>○施設外就労を希望する福祉事業所の一覧を作成し、JAに情報提供することで、生産者からの農福連携依頼に対するマッチング材料として利活用させる。</p>			
				<p>左：大葉の袋詰め(JA えひめ中央)</p> <p>右：ユリ畑の除草(JA 松山市)</p>


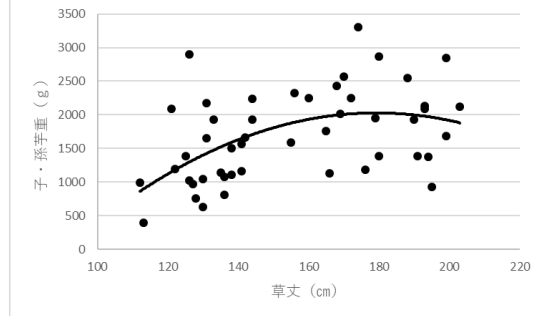
標 題	こだわりのいちじくの魅力を愛媛 CATV で PR		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和4年8月2日	場所	松山市北条	
指導対象	就農候補者	連携機関	JA えひめ中央、愛媛 CATV	
普及指導内容	<p>○中予の農産物や農業の魅力を発信するため、若手農業職員が愛媛 CATV と連携して5分番組「キラキラ農業！大好きえひめ！」の企画・取材撮影を行っている。</p> <p>○8月は、いちじくの栽培方法としては全国でも珍しい、コンテナを活用した根域制限栽培に取り組む生産者取材した。</p>			
結果と今後	<p>○省力的で高品質生産が可能なコンテナ栽培のメリットを、放送によって他の農家等にも広く情報提供できた。</p> <p>○CATVは9月3日まで通算4回放送し、Youtubeでも動画を公開する。</p> <p>○取材対象は若手農業職員が毎月企画しており、今後も、農産物はもとより、農業女子や農福連携といった新たな視点も取り入れた企画で農業の情報発信・PRに取り組む。</p>			
				
肥培管理など栽培の こだわりを語る生産者		早朝に収穫したいちじく		コンテナを活用した栽培で 受光態勢や作業性も良好


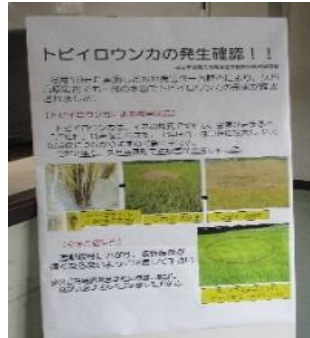
標 題	新規就農者フォローアップによる定着支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年8月22日～26日	場所	伊予市	
指導対象	新規就農者等（18人）	連携機関	伊予市、JA えひめ中央 日本政策金融公庫	
普及指導内容	<p>○関係機関で構成する就農サポートチームで新規就農者等に対する巡回指導を実施した。</p> <p>○青年等就農計画の認定を受けた新規就農者の昨年度経営実績をもとに現地ほ場の状況を確認、目標達成に向け各人の問題点の洗い出しと課題の再設定を行った。</p>			
結果と今後	<p>○就農者側から規模拡大や施設導入等に対する補助事業や資金相談があったため、早期経営安定に向けて重点的にフォローアップしていく。</p> <p>○一部栽培品目の変更や生育不良、病害等による減収があったため、今後は計画達成に向けて技術面を中心に指導していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：キウフルーツ苗木生育状況確認 右：面談による状況確認</p>				


標 題	広田自然薯組合夏季研修会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年8月9日	場所	砥部町広田	
指導対象	広田自然薯組合（8人） 県立伊予農業高校生（15人）	連携機関	県立伊予農業高校	
普及指導内容	<p>○室内研修では、当班からやまのいもの育苗ハウスで天敵放飼の状況や施肥とかん水技術を講義した。</p> <p>○ほ場では、種芋の育苗や栽培状況を組合員とともに確認した。</p> <p>○生徒らは、やまのいも栽培のプロジェクト学習の一環で研修に参加し、学習発表を行って、組合員との相互研さんを図った。</p>			
結果と今後	○これまでのところ、病害虫の発生はほとんどなく栽培状況は順調で、12月の収穫に向けて栽培管理を指導する。			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：やまのいも生育状況確認 右：室内研修</p>				



標 題	6次化商品「されだにゆずこしょう」のピンチを支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年8月19日	場所	伊予市中山町佐礼谷	
指導対象	住民自治されだに特産品開発女子部 (イエローキッチン：8人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○イエローキッチンは、2010年から会員等が生産した青ゆずを利用して、地域ぐるみで「手ずりゆずこしょう SAREDANI」を商品化しているが、本年、同地区のゆずが隔年結果により近年まれにみる不作となり、製造が危ぶまれていた。</p> <p>○そこで、当班では、管内等のゆず生産者をピックアップし、不足する青ゆず約250kgの供給マッチングを支援した。</p>			
結果と今後	<p>○本年も道の駅クラフトの里（伊予市中山町）で1,000個以上の販売が見込めることとなった。</p> <p>○今後もゆずの安定生産に向けた栽培管理を指導していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>地域ぐるみのゆず加工</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>削り終えたゆず</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ゆずこしょうの商品</p> </div> </div>				

標 題	伊予地区、水稻紋枯病が多発		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年8月30日	場所	伊予地区管内水稻ほ場	
指導対象	伊予地区水稻栽培者	連携機関	伊予地区農業技術者連絡協議会農産部会、病害虫防除所、農薬メーカー等	
普及指導内容	○水稻の主要な病害虫の発生状況を確認し、防除対策に役立てるため、水稻病害虫一斉調査を実施した。			
結果と今後	<p>○紋枯病の発生が、52ほ場中32ほ場(約62%)で確認された。</p> <p>○その他の病害や、トビイロウンカ等の害虫の発生は少なかった。</p> <p>○9月も一斉防除を実施し、出穂期防除の徹底と適期収穫を指導する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;">  <div style="text-align: right;"> <p>水稻病害虫の発生状況を調査</p> </div> </div>				



標 題	さといも「愛媛農試V2号」の生育順調		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和4年8月30日、31日	場所	松前町	
指導対象	管内さといも生産者	連携機関	JA松山市、県農林水産研究所	
普及指導内容	○さといも「愛媛農試V2号」の安定生産に向け、地上部（草丈、葉の大きさ等）の生育状況を調査した。			
結果と今後	○8月31日時点において、30株平均で、草丈173.5cmとなり、昨年の結果から順調な生育であることがうかがえた。 ○収量調査を9月と11月に実施し、状況に応じて今後の栽培指導を行い、収量と品質の向上を目指す。			
				
草丈等の計測		令和3年伊予地区さといも草丈と収量の関係		



標 題	久万高原町で水稻の病害虫一斉調査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年8月19日	場所	久万高原町各地	
指導対象	水稻栽培者	連携機関	県病害虫防除所、JA松山市 JA全農えひめほか	
普及指導内容	○8月末の水稻収穫開始に向けて、病害虫発生状況の把握と対策を講じるために今年2回目の病害虫一斉調査を実施した。 ○この調査は、令和2年度に管内の水稻でトビイロウンカによる被害が多発したことから実施しており、今回は関係機関約20人が4班に分かれ払落しや補虫網によるすくい取り等による個体数確認を行った。			
結果と今後	○調査の結果、数カ所のほ場でトビイロウンカの幼虫が確認された。 ○令和2年度に被害が発生したほ場の大半が収穫遅れのほ場であったことから、注意喚起並びに適期収穫の実践啓発用ポスターを作成し各所に掲示するとともに、防災無線を活用し、生産者へ周知した。			
				
		左：払落し調査(8/19) 右：注意喚起のポスター		



標 題	研修生および新規就農者を対象にトマトの生育調査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年8月9日、24日	場所	久万高原町各地	
指導対象	トマト生産農家（12人）	連携機関	久万高原町農業公園アグリピア JA松山市	
普及指導内容	<p>○久万農業公園研修生および新規就農1～2年目の若手農業者を対象に、トマトの生育調査を実施した。</p> <p>○これは、研修生と新規就農者の栽培技術や生産力向上を図るため、当班のトマト指導チームが、約2週間おきに実施しているもの。</p>			
結果と今後	<p>○各農家の現在の生育、病害虫の発生、肥培管理の進捗状況等を把握し、栽培指導を行う上での基礎データを収集するとともに、各農家へ調査結果を返すことで、それぞれのトマトの生育状況を把握でき、今後なすべき作業を明確にすることができた。</p> <p>○次回は9月6日、21日に実施し、引き続き生育・管理状況の把握に努め、若手農業者のスキルアップを図っていく。</p>			
				生育調査の実施状況


標 題	愛媛 CATV を通じたいちごの PR		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年8月31日	場所	久万高原町畑野川地区	
指導対象	就農候補者	連携機関	久万高原町、愛媛 CATV	
普及指導内容	<p>○愛媛 CATV と連携して毎月放送している5分間番組「キラキラ農業！大好きえひめ！」で、9月に紹介する農業公園アグリピアのいちごの撮影を行った。</p> <p>○若手普及職員がレポーターとなり施設の担当者にインタビュー形式でいちごの PR を行うとともに、販売場所や施設の今後の目標を答えてもらった。</p>			
結果と今後	<p>○高冷地だからこそ生産できる夏のいちごを紹介することで意外性のある内容になり、久万高原地域の特色や新たな特産品の周知を図ることが出来た。</p>			
				<p>左：撮影風景</p> <p>右：いちごとジャム</p>



標 題	雑穀が収穫期を迎える		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和4年8月下旬	場所	久万高原町各地	
指導対象	雑穀栽培農家（6人）	連携機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導内容	<p>○耕作放棄地対策や地域食材の伝承、高齢者の生きがいがいづくりにもつながることから、雑穀を利用して、今年度から地方局予算事業「久万高原地域食材伝承事業」として、生産振興を図っている。</p> <p>○5月12日に当班が播種・育苗後、管内6戸の農家に配布していた雑穀が順調に生育し、月末から収穫期を迎えており、今回、適期収穫の徹底、適切な乾燥・調製を指導した。</p> <p>○また、愛媛CATVと連携し、雑穀の生育状況や郷土料理が出来るまでの動画を編集した。</p>			
結果と今後	<p>○雑穀を使用した商品の開発等に興味を示す農家も多く、道の駅等で販売につなげたいとの声もあることから支援していく。</p> <p>○作成した動画は、YouTube等でネット配信するとともに、今後は、雑穀郷土料理講座の開催を計画しており、雑穀のPRを通して久万高原地域の魅力を発信していく。</p>			
			 <p>収穫期を迎えた雑穀</p>	



標 題	さといもの産地強化に向け関係機関と意見交換		機関名	南予地方局地域農業育成室 〃 産地戦略推進室
年月日	令和4年8月22日	場所	JAえひめ南 三間支所	
指導対象	管内さといも生産農家	連携機関	JAえひめ南、JA全農えひめ、宇和島市、松野町、鬼北町、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算事業「種用サトイモ生産体制確立事業」で取り組んでいる、セル苗を用いた種芋生産技術やさといも疫病防除対策、収量向上対策等について、現状や課題を農家及び関係者で共有するとともに、今後の対策等について意見交換を行った。</p> <p>○南予管内は、さといも疫病の未発地域として生食用とともに種芋生産に取り組み、面積は年々増加しているが、単収が少なく年次変動も大きいことが課題。</p>			
結果と今後	<p>○これらの課題について、セル苗を用いた種芋生産における収量の確保には定植時期の前進が重要であること、疫病対策ではほ場内への防除用通路の設置により、栽植本数は減るものの防除が効率的に行えること、生食用の増収対策では梅雨期でも天候の状況を見ながらタイムリーにかん水を行うことが重要等の意見が出され、農家への情報提供や指導の徹底を図ることを申し合わせた。</p>			
			  <p>左：産地強化に向けた協議 右：栽培ほ場見学</p>	


標 題	就農を目指す農業研修生を対象に研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年8月9日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	地区認定農業者青年部役員（4人） 松野町農業公社研修生（1人） 鬼北町農林公社研修生（3人）	連携 機関	松野町、松野町農林公社 鬼北町、鬼北町農業公社	
普及指導 内容	<p>○両公社の研修生等を対象に、就農に向けた研修会を開催し、地区の若手農業者（地区認定農業者青年部役員）や両町、公社関係者らが出席した。</p> <p>○室内研修では、事前に要望のあった補助事業や制度資金等の活用について説明した後座談会を実施した。</p> <p>○その後現地ほ場へ移動し、「スマート農業体験」として、アシストスーツの着用や水田水管理システムの見学を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、就農に当たっての疑問点や不安な部分を話し合ったほか、スマート農業機器等の導入上の課題等について理解を深めた。</p> <p>○引き続き関係機関と連携し、経営計画の作成に向けた資金や事業等の相談対応、品目に応じた技術指導等を行い、円滑な就農と定着につなげる。</p>			
				<p>左：就農に関する座談会 右：水管理システムの見学</p>


標 題	キウイの花粉ビジネスにおける新梢管理の省力化試験を実施		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年8月24日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	松野町キウイ花粉生産農家	連携 機関	松野町、県果樹研究センター	
普及指導 内容	<p>○キウイフルーツ花粉を採取する雄木は樹勢が強く、夏場に多くの新梢が発生して管理に労力を要するため、植物調整剤を用いた新梢の伸長抑制試験を実施している。</p> <p>○本剤は、ハウスみかんの夏秋梢の発生抑制にも使用されているもので、キウイフルーツの雄木にも効果があるとして、昨年5月に登録されたもの。</p> <p>○散布後、約1ヶ月経過した24日に1回目の調査を行った結果、散布した新梢の伸長抑制効果が確認された。</p>			
結果と今後	<p>○本剤の利用により、新梢管理の大幅な省力化が期待されるため、引き続き、散布した枝から発生する副梢についても抑制効果を確認する。</p> <p>○一方で、今回、葉の一部に捻転等の症状が見られたことから、これらの影響についても調査を行った上で、農家への普及を目指す。</p>			
				<p>左：散布処理 右：散布後の新梢伸長抑制</p>


標 題	多収穫米の適期刈り取り等を指導		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年8月29日	場所	愛南町	
指導対象	多収穫米栽培実証農家	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○「コシヒカリ」の価格低迷等により、大規模農家を中心に飼料用米など新規需要米の作付けが拡大する中で、業務用需要の見込める良食味多収穫米についても地域への導入を検討しており、今年度は2戸の農家が「にじのきらめき」を試験栽培している。</p> <p>○多収穫米は、一般主食用米と比べてやや単価は安いものの、業務用として契約栽培することで、所得が安定するなどのメリットが期待されている。</p> <p>○一方で、外観での熟期判定が従来の「コシヒカリ」より難しいことから、当室では収穫適期の判定や、大粒系品種特有の乾燥調製方法などのポイントについて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、地域特産のブロッコリーの後作でも倒伏しない施肥管理方法の導入や、野菜生産者等と連携した面積の拡大について関係団体と連携して取り組む。</p>			
<p>【にじのきらめき】 農研機構中央農業研究センターが育成した「暑さに強く、倒伏しにくい多収性の良食味品種」。 コシヒカリと同等の良食味で、15～30%程度の収量増を見込めるため、水稻農家の所得の確保が期待できる。 県内では、今年度6JA、27haで栽培に取り組んでおり、今後も中・外食での需要が期待される。</p>				
<p>成熟期を迎えた「にじのきらめき」</p>				



標 題	小麦粉の代替として米粉を使った商品開発を目指す		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和4年8月22日	場所	愛南町御荘文化センター	
指導対象	愛南生活研究協議会（4人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○世界情勢や小麦主産国の影響等で小麦粉の価格が高騰している中、これに代わる食材として米粉に着目し、新たな商品開発を目指して研修会を開催した。</p> <p>○愛南町では早期米の「コシヒカリ」を中心に約390haで水稻を栽培し、近年、販売価格が低迷している中で、米粉を製粉している女性農業者から提案があったもの。</p> <p>○当日は、地元産の「コシヒカリ」を用い、これまで小麦粉で作っていた蒸しパンや、クッキーなど7品目を米粉で試作した。</p>			
結果と今後	<p>○小麦粉と米粉の違いに苦心する場面もあったが、本研修会で加工適性の違いを習得できたとの声があった。</p> <p>○今後、商品開発に向けた改良を支援するとともに、米粉の用途開拓と消費拡大につなげる。</p>			
				
		<p>左：調理の状況 右：試作した米粉加工品</p>		



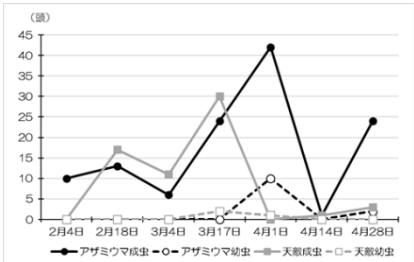
標 題	「媛かぐや」等新品目導入を契機とした産直市の活性化		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月23日	場所	宇和島市道の駅みま会議室及び現地	
指導対象	道の駅みま出荷農家（7人）	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○道の駅みまの活性化に向け、直売用新品目導入を推進している当室は、県育成さといも「媛かぐや」について、産直担当者と共に現地巡回を実施した。</p> <p>○売り場担当者の同品目への理解促進と生産農家との結びつき強化を狙っており、生育状況の確認や栽培に関する聞き取り後、栽培管理について指導するとともに、産直担当者と今後の指導内容・周知方法等について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○生育については、8月上中旬の少雨の影響で遅れ気味であるものの概ね順調で、11月頃、適期収穫や計画的出荷を呼びかける検討会を開催する予定。</p> <p>○農家への周知について、今後の栽培管理や病害虫防除ポイントのメール配信に加え、お知らせとして定期的なポスター掲示を行うこととした。</p> <p>○「媛かぐや」を題材とした産直と農家の一体的取組を、他の出荷者へもPRし、次の新規提案品目「あまおとめ」等の生産農家獲得につなげたい考え。</p>			
				<p>左：「媛かぐや」生育状況</p> <p>右：指導方法の打合せ</p>

標 題	儲かる農業を目指す若手生産者へ経営指導		機関名	南予地方局産地戦略推進室 鬼北農業指導班
年月日	令和4年8月30日	場所	松野町	
指導対象	うめ栽培農家1人	連携機関		
普及指導内容	<p>○うめ栽培・加工・販売を手掛ける若手農家への経営指導を実施し、5年後の経営規模・販売計画の見込みや導入機械等について協議した。</p> <p>○規模拡大を目指す上で、労働力を含むコスト増への懸念があるため、今回、肥料コスト低減に向けた堆肥利用を検討し、土壌分析結果を基に施肥量の算出方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○堆肥の活用で肥料コストは下がるものの、施肥量の増加による散布の手間が増えることが予想され、松野町農林公社の「アグリレスキュー事業」の活用を検討する。</p> <p>○新植計画もあることから、10月には定植前の土づくり指導を予定している。</p>			
		<p>経営計画の確認と 土壌分析調査結果を説明</p>		

標 題	県内飲食店事業者に対する冷蔵貯蔵「清見」の 需要調査(地産地消マッチング商談会)を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年8月23日	場所	愛媛県県民文化会館	
指導対象	JAにしうわ三崎柑橘共同選果部会販 売担当	連携 機関	ブランド戦略課、JAにしうわ	
普及指導 内容	○かんきつ類の端境期(6月)に流通する冷蔵貯蔵した「清見」の販売量増加を目指し、 販路拡大支援に取り組んでいる。 ○「えひめ地産地消マッチング商談会 2022」において、初夏におけるかんきつ類の需要 調査を行い、商品 PR と有利販売に努めた。			
結果と今後	○商談相手からは、「初夏に提供できる品種は限られているため、非常に魅力的」「いつ まで貯蔵できるのか」「価格帯・流通経路はどのようになっているのか」との意見や質 問があった。 ○特に、旅館業を営む担当者からは「観光客が喜ぶのではないかと前向きな声が聞か れた。 ○今後、三崎柑橘共同選果部会の生産推進協議会に調査結果を報告し、新たな取引先 について検討する。			
				
商談会で冷蔵清見の需要を調査				

標 題	法人の経営力強化に向けワークショップによる 研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和4年8月23日	場所	八幡浜支局	
指導対象	集落リーダー等 (10人)	連携 機関	JAにしうわ、八幡浜市、 西予市、伊方町	
普及指導 内容	○地方局予算事業「西宇和地域柑橘集落営農組織支援事業」の一環として、法人の経営 力強化を図ることを目的に、経営計画の策定に関する研修会をワークショップ形式で 開催した。 ○講師である IM ソリューションズ株式会社 岡本陽氏から、SWOT 分析の手順・要点・ 考え方の説明・指導を受け、顧客(取引先)に対する自社の経営の在り方等について、 意見を出し合いながら検討した。			
結果と今後	○SWOT 分析により、強み、弱み、機会、脅威を整理し、現状の経営上の問題点や今後の 改善方策を共有した。 ○参加者からは「本手法を集落内でも実施し、若い人の声やアイデアも反映させたい」 と前向きな意見が出された。 ○経営計画の作成は、1. 理念の明確化、2. 環境分析、3. 事業内容の決定、4. 戦略会議、 5. 行動計画作成の手順で行うが、今回実施した研修内容は2. 環境分析の部分であり、 今後、集落内での話し合いを通じ、目標設定や行動計画についても検討する。			
				
講師による SWOT 分析の説明		ワークショップで意見を出し合う		SWOT 分析

標 題	高知県で新しょうが多収栽培技術を視察		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和4年8月4日	場所	高知県四万十町川ノ内	
指導対象	生産農家（1法人）	連携機関		
普及指導内容	<p>○地方局予算事業「南予儲かる農業人材育成事業」の一環で、管内に導入を進める新しょうがについて、基本技術の習得と大洲喜多地区の気象条件に適応した栽培体系を確立するために高知県の先進農家視察を実施した。</p> <p>○定植時期の違いや有機質資材の施用、かん水量などの諸条件が収量と品質に及ぼす影響を先進農家から聞き取ったほか、市況・相場等の意見交換を通じ、しょうがの生産と流通に関する情報を収集した。</p>			
結果と今後	<p>○12月以降に定植する作型において、適正な有機質資材の施用等による栽培実証を開始し、当地域での栽培技術の確立を図る。</p> <p>○また、個別巡回指導や勉強会、交流セミナー等を通じて、新規就農者等への新たな経営モデルとして、しょうが栽培を提案していく。</p>			
				<p>左：しょうがほ場（高知県四万十町） 右：地元農家の栽培技術を確認</p>

標 題	いちごの天敵アザミウマによる防除効果を巡回指導で生産者に周知		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班																																								
年月日	令和4年8月17日～18日	場所	西予市宇和地区																																									
指導対象	いちご生産者（17人）	連携機関	JAひがしうわ																																									
普及指導内容	<p>○いちごの果実を加害するアザミウマ類に対する天敵アザミウマの防除効果について、個別巡回指導で生産者に周知した。</p> <p>○3月中旬まで天敵成虫・幼虫ともに増加を確認し、3月は薬剤防除の必要がなく、一定の防除効果が認められたものの、4月以降はアザミウマ類の増加が目立ったことから、利用にあたっては、ほ場への十分な定着がポイントと説明した。</p>																																											
結果と今後	<p>○令和3年産でアザミウマによる被害が大きかった生産者1人が関心を示し、令和4年産から利用を検討しているため、導入に向けてフォローする。</p> <p>○西予地域のいちご栽培におけるIPMへの取組が拡大しており、今後、定着に向け一層の普及推進を図る。</p>																																											
				<p>左：天敵アザミウマ 右：100花あたりのアザミウマ類・天敵の頭数</p>																																								
 <table border="1"> <caption>アザミウマ類と天敵の頭数推移 (単位: 頭)</caption> <thead> <tr> <th>調査日</th> <th>アザミウマ成虫</th> <th>アザミウマ幼虫</th> <th>天敵成虫</th> <th>天敵幼虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2月4日</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2月18日</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3月4日</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3月17日</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4月1日</td> <td>40</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4月14日</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4月28日</td> <td>25</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>					調査日	アザミウマ成虫	アザミウマ幼虫	天敵成虫	天敵幼虫	2月4日	10	0	0	0	2月18日	15	0	0	0	3月4日	10	0	0	0	3月17日	25	0	0	0	4月1日	40	0	0	0	4月14日	5	0	0	0	4月28日	25	0	0	0
調査日	アザミウマ成虫	アザミウマ幼虫	天敵成虫	天敵幼虫																																								
2月4日	10	0	0	0																																								
2月18日	15	0	0	0																																								
3月4日	10	0	0	0																																								
3月17日	25	0	0	0																																								
4月1日	40	0	0	0																																								
4月14日	5	0	0	0																																								
4月28日	25	0	0	0																																								

標 題	地元高校生によるにんにく加工品づくりを支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和4年8月1日	場所	西予市野村地区	
指導対象	野村町生活研究会員（2人） 県立野村高校生（3人）	連携 機関	県立野村高校、野村町生活研究会	
普及指導 内容	○大野ヶ原で産地化を進めるにんにくの需要拡大とPRを図るため、畜産科生徒による加工品づくりの研修会を開催した。 ○研修会では生活研究会員を講師に招き、にんにくを利用したソースづくり実習と他の食材や調味料との組み合わせ等について指導した。			
結果と今後	○大野ヶ原で生産されるにんにく栽培や調理・加工方法について、認識を深めるとともに、高校生と女性農業者との交流が図られた。 ○当日試作したソースは今後も検討を重ね、11月開催のえひめ南予きずな博「BBQソース甲子園」への出品を計画している。			



左：ソースづくりの説明
右：試作品の完成

標 題	加工用青ねぎにおける排水改善・減肥に向けた緑肥作物の効果検証を開始		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和4年8月5日～	場所	西予市野村町	
指導対象	(株)百姓百品村	連携 機関		
普及指導 内容	○加工用青ねぎの排水不良園での生育改善及び肥料高騰を踏まえた減肥を目的とした、緑肥作物栽培試験を開始した。 ○深根性かつ窒素固定が期待できるマメ科植物のセスパニアの播種・覆土を実施している。			
結果と今後	○約10日後には良好な発芽を認め、生産者所有の農機で播種及び覆土が可能であることを確認した。 ○1～2か月後にすき込んだ後、青ねぎの生育調査や土壌診断により本方法の実用性を確認予定である。			

【緑肥】
新鮮な植物をそのまま土壌中にすき込んで分解させ、土づくりや肥料として利用すること。
【セスパニア】
マメ科の1年草。耐湿性に優れ、直根系で根が深くまで伸長するため、土壌の透水性改善に効果的。





トラクターによる覆土



播種10日後の試験ほ場

標 題	基盤整備ほ場の効果的な土づくり実証		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年8月15日～22日	場所	松山市下難波	
指導対象	農業法人	連携機関		
普及指導内容	<p>○造成後の土づくり・土壌流亡対策を行うかんきつ基盤整備ほ場において、緑肥作物として実証栽培中のソルゴの刈り取りを指導した。</p> <p>○刈り残した株から再生する緑肥作物の再生産力やその後のすき込み作業など、引き続き効果的な土づくりと土壌流亡対策の作業工程を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○出穂期を過ぎて草勢が低下し生長が見込めなくなったソルゴは、地上部5cm程度を残して刈り取ると、その後に適度な温度と土壌水分があれば1週間程度で株元から再生し、分けつした茎が伸長を開始した。</p> <p>○ソルゴは緑肥作物として再生産利用が可能なことを確認するとともに、引き続き、土壌流亡の抑制効果も期待できる。</p> <p>○今後、ソルゴの生育状況に応じて追肥を行うなど草勢の向上に向けた対策を検討し、生育が停止する11月頃には今回刈り取った茎葉とともに緑肥としてすき込みを行う予定としている。</p>			
 <p>モアで刈り取り・粉碎 再生したソルゴが土壌流亡を防ぐ 分けつし再生長するソルゴ</p>				

標 題	さといもの早期出荷に向けた栽培技術指導及び加工業務品種の生産について協議		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和4年8月9日	場所	大洲市菅田	
指導対象	農業法人	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○さといもの生産拡大に取り組む農業法人のさらなる栽培技術向上を支援するため、「女早生」の早期出荷の増収に向けた栽培管理技術について指導した。</p> <p>○当法人は、加工業務向けに新たに「媛かぐや」の生産を検討しているため、栽培上の注意点や種苗の確保・育苗方法について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○当法人は、「早期出荷の疑問点や不明点が整理できたので、品種や気象条件に応じた栽培管理を行いたい」と意気込んだ。</p> <p>○今後、「媛かぐや」の導入に向け準備を進めるとともに、株あたり1.2～1.5kg以上の親芋生産を目指した栽培管理方法を検討することとした。</p> <p>○また、県農林水産研究所など関係機関とも連携し、引き続き当法人におけるさといもの栽培管理技術の向上を図るとともに、「媛かぐや」生産を支援する。</p>			
<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 30%; margin-right: 10px;"> <p>【媛かぐや】 県農林水産研究所が「筍芋」と「えび芋」の交配で開発した親芋を食べる品種。形状は砲弾型で、肉質は粉質で加工用途も期待される。</p> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">  <p>旺盛に生育した「女早生」</p>  <p>肥大状況の確認</p> </div> </div>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543